

令和5-7年度 研究課題（山梨大学・大岡忠生）

先制医療を実現するAI・IoT・オミックス情報を融合した ヘルスケアアプリケーションの研究開発および行動変容エビデンスの構築

研究概要

- **代表研究者**：山梨大学・大岡忠生
- **分担機関**：福島県立医科大学、株式会社ネオシステム
- **研究開発目的**：IoT・オミックス情報を活用したAIアプリの開発およびアプリ活用に伴う行動変容エビデンスの構築
- **目指すべき姿**：IoT・オミックス情報を利用者が解釈可能な形でアプリ上に表示し、AIと保健スタッフとの伴走により生活習慣病の発症前個別予防(先制医療)を実現する。

今後の進め方

令和6年度までに、IoT情報を用いた健診受診者向けアプリ「Taohealth」の初版を完成させ、糖尿病予備軍215名に半年間アプリを利用して頂き、更に3ヶ月毎にオミックス情報を収集するオミックス・IoTコホート研究を開始した。
令和7年度からは、アプリから収集した縦断健康データとオミックス情報の統合解析を行い、行動変容エビデンスの構築を行う。事業終了後は、医療・保健施設への展開により本アプリとオミックス検査の横展開・マネタイズを進めていく。

研究イメージ

【個人用ヘルスケアアプリの開発と行動変容エビデンス構築】



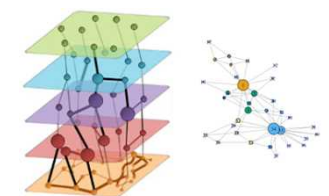
食事・運動・睡眠・嗜好・ストレス
5種20項目の健康指標を継続的に蓄積
→ 健診・オミックス情報との統合解析へ

自分の全健康情報をアプリで記録管理
AIによる継続的な個別の健康フィードバック

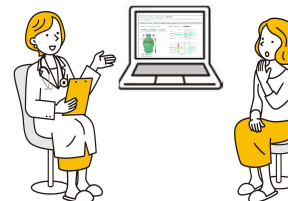
健康診断結果

IOT情報

オミックス情報



受診者の日常生活情報を保健指導時に確認
AI・アプリによる指導個別化と将来健康予測



アプリ併用保健指導・オミックス検査による
生活習慣病の発症前個別予防
(先制医療)の実現へ

【保健スタッフ用ヘルスケアアプリの開発と先制医療の実現】